

た い へ ン な 米 作 り

檜 原 で よ く 見 か け る 田 ん ぼ は 春 か ら 夏 に

か け 、 お と り 色 の 葉 を 大 き く 伸 ば し て い ます

秋 に な る と み ど り 色 た だ 稲 が ど ん ど ん 茶 色

に な っ て い ます 。 と こ ろ で み な さ ん は 、 い

つ も 食 べ て い る お 米 に な る ま で は 、 ど ん な

作 業 を し て い る と 思 い ます か 。

私 は 五 年 生 に な り 、 お 米 の 育 て 方 を 知 り

ま し た 。 私 が 一 番 最 初 に 見 学 し た の は 代 か

き で し た 。 そ れ は 四 月 に 田 に 水 を 引 き

水 の 深 さ や 水 は け に ム ラ が 出 な い よ う に 表 面

を な ら す 作 業 で す 。 私 た ち は 手 も 足 も ど ろ ど

ろ に な っ て 、 最 初 は い や な 感 じ で し た か や 。

て い る と 察 し か っ た で す 。 育 て て い る 時 観

察 す る と 稲 の 色 が こ い 緑 色 だ っ た

り 、 う す い 色 だ っ た り 、 そ れ は

肥 料 の 量 の 関 係 な の で す 。 そ の 表

は 葉 色 カ ラ ン で す 。 (図 1) そ の 次 、

な え の 根 を い た め る ガ ス を 抜 き 、

〈 気 を つ け る こ と 〉

・ て ん (ー) や 、 (ー) 、 だ ん ら く に 気 を つ け て 書 き ま し ょ う 。
・ 「 い つ 」 「 ど こ で 」 「 だ れ が 」 「 何 を し た 」 に 気 を つ け て 書 き ま し ょ う 。
・ 話 の じ ゅ ん じ ょ や 、 文 し ょ う の 組 み 立 て を く ふ う し て 書 き ま し ょ う 。

酸素を取り入れるため一週間ぐら田の土を

かあかす中干しの作業です。土かびきびきに

あれていました。夏の終わりごろに花が咲

き、花のあとに実が出来ます。その実がお米

です。かりとる日は積算温度を計

算して決めます。次に稲の実り

を見きあめ計画的に刈り取る作業

です。私はかまで刈るのはと

ても重くておずかしかったです。

刈った稲は、葉を取り、もみにします。そ

の作業をだ。こくと言います。そのもみをも

みすりしてげん米にします。そのげん米の表

面をおおうぬかを取ると白米になります。

私は、一つ一つの作業があつてこそ米作

りなんだな。と思ひました。昔は、一つ一

つ手作業なのでたいへんだと思ひました。こ

のことから昔の人はたぐさんのちえや考え

を使つて作業しているのてこ人な一年もかか

る大きな産業になるんだなと思ひました。

（気をつけること）

・てん（）や、（）、だんらしく気をつけて書きましょう。
・「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」に気をつけて書きましょう。
・話のじゅんじよや、文しょうの組み立てをくふうして書きましょう。



稲かりについて

ぼくたち五年生は総合の時間に、何日もかけてお米をつくりました。できあがるまでにやった稲かりをみなさんはかんたんに思っています。いませんか。今では機械もあるのでそう思うかも知れませんが、昔は稲かりをある方法でやっていた。何かわかりますか。

昔はかまでやっていたのです。稲かりに使

うかまは、図のようで、稲にひっかけ、引っぱります。一束ずつやるのでとても時間がかります。それに態勢がきついのでとても



す。かまでやることで一生けん命やっている分おいしく感じます。ぼくはかまの先がとがっているから最初は少しこわかったのですが、もなれるとこわさは楽しさに変わります。コッツがわかたときには稲かりで夢中でした。

（気をつけること）

・「てん（へ）や、（へ）で、だんらくに気をつけて書きましょう。
・「いつ」「どこ」「だれが」「何をした」に気をつけて書きましょう。
・話のじゅんじょや、文しよの組み立てをくふうして書きましょう。



ぼくがいたいことは、二つあります。一
 つは昔は今はちがい機械がなくなれるの
 に、米をつくるために昔の人はがんばって
 て食べる人のために一生けん命だというこ
 です。だから感謝の気持ちをもつていま
 ます。
 ニつ目はみなさんにも稲かりを体験し
 らいたいということです。これはぼくの思
 ったことで、稲かりを体験したら昔の人
 への思いがわかると思います。そして昔
 の人の苦労も伝わってくるからです。
 稲かりは楽しいです。お米なら何にでも
 できるから、いいものだなあと思いました。

へ気をつけること

・てん（）や、（）、だんらくに気をつけて書きましょう。
 ・「いつ」「どこで」「だれが」「何をしたら」に気をつけて書きましょう。
 ・話のじゅんじょや、文しよの組み立てをくふうして書きましょう。